

Open Village ノキシタ

震災後の新興地域で「つながり」を担う居場所

設計・監理 積水ハウス株式会社/株式会社石森建築設計事務所
 施工 積水ハウス株式会社/有限会社アトリエ海
 施主 国寿航業株式会社/NPO法人シャロームの会
 企画・運営 株式会社AiNest(国寿航業株式会社100%出資子会社)



西側より見る。



田子西 航空写真 2005年(左)/2016年(右)



国寿航業株式会社 撮影

地縁の薄い移住先で安心できる居場所をつくり、「つながり」と「役割」で健康なまちづくりをコンセプトに“多様なつながりを育む小さなまち”Open Village ノキシタ。
 仙台市東部に位置する宮城野区田子西は、東日本大震災の被災者が多く移り住んできた新興地域である。同エリア内に大規模な災害復興住宅が建てられたが、移転先に新しく住む子育て世代や高齢世代の方々は地縁も少ないため地域のつながりが乏しく、また日常で気軽に立ち寄れる場が少ない状況であった。子育て世代が気軽に相談しあえたり、高齢者や障がい者が社会と接点を持ちながら暮らせるように出来ないか、地域ニーズを汲み取り、多様な協力者たちと繰り返し対話を積み重ねることで実現したプロジェクトである。



東日本大震災による被災状況 縮尺1/70,000



仙台市宮城野区田子西 縮尺1/5,500

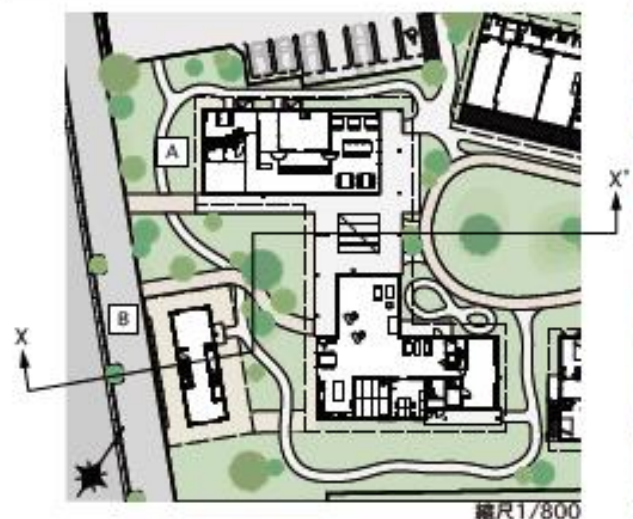
事業の仕組み

被災者を含め、高齢者・障がい者・子どもは支援される側になりがちだが、それぞれが何らかの役割を持って交流できる場があれば健康寿命が延び、社会保障費の削減にもつながる。事業者(株式会社AiNest)は補助金や助成金に頼らず、介護を必要とする高齢者をできるだけ増やさない取り組みが必要であり行政からの支援にできるだけ頼らずに、自分たちで利益を出して事業を継続する仕組みを目指している。(企業としての、ESGの取り組みでもある。)
 そこで、利用者自らが無意識のうちに社会課題解決の役割を担う新しい仕組みをつくることを考えた。一人で過ごせる空間もあり、緩やかなつながりも大切にできる。既存制度に捉われず、多様な取組を試行できることで新たな交流が生まれるなど相乗効果を生んでいる。

本事業は、厚生労働省のソーシャル・インパクト・ボンドのモデル事業(2017年度計画策定型)にも選定された。



A・B棟 詳細断面図



縮尺1/800



集いの中心となるコネクティブスペース。



軒下でのイベント。



多世代交流。

足元の低木や季節の花の植込みは地域ボランティアの方との共同作業による。緑の成長や小鳥のさえずりを楽しみながら手入れをし、住宅街の緑木林を目指す。敷地内に配した緑や菜園、花壇は建物間を縫うように小径を移動する体験をより楽しげにする。

積水ハウスグループ独自の考え方である「5本の樹」計画を導入。気候風土に合わせた地域区分を設け、それぞれに適した樹木を植えている。地域ならではの美しさや香り、実をもつ樹木を植えることで、庭そのものが地域の生態系の一員として生物多様性に寄与する存在となる。

中庭中心のシンボリックな2コブの築山は、子供たちの格好のプレイマウンテンとなっている。周囲の建物から目が届きやすく子どもたちが安全に過ごせるように工夫している。



X-X' 断面図 縮尺1/100



小径がつかなく居処に囲まれた庭。



中庭築山に集まる人々。



小径空間。

Open Village ノキシタ

所在地 : 仙台市宮城野区田子西
竣工 : 2019年5月
設計・監理 : 積水ハウス株式会社
株式会社石森建築設計事務所
施工 : 積水ハウス株式会社
有限会社アトリエ海(ギャラリー)
施主 : 国際航業株式会社
NPO法人シャロームの会
企画・運営 : 株式会社AiNest
(国際航業株式会社100%子会社)
テナント : 社会福祉法人はげみの会
NPO法人シャロームの会
事業内容 : A.コネクティブ+障がい者就労支援B型
B.ギャラリー
C.保育園
D.障がい者グループホーム
E.ショートステイ+相談支援

敷地面積 : 4,255.56㎡
総延床面積 : 1,357.32㎡
構造 : A.木造軸組構法「シャウウッド構法」平屋建
B.在来木造2階建
C.ユニバーサルフレーム・システム 平屋建
D.ユニバーサルフレーム・システム 2階建
E.木造軸組構法「シャウウッド構法」2階建
駐車場 : 40台
(内・車椅子対応2台、軽自動車2台)
協力 : LUME
Lidea
simpo
dessert
木工房端
上手工所
玉木田美術
木香舎
Athle







配置図

- A. コレクティブ+障がい者就労支援B型
- B. ギャラリー
- C. 保育園
- D. 障がい者グループホーム
- E. ショートステイ+相談支援

勾配天井に吹き抜けた明るいカフェ空間には、さくらなど地産無垢材でオーダーメイドした家具が配され、中庭を駆け回る子供達を見ながらゆったりと野菜たっぷりのメニューから選んで食事ができる。
NPOが運営しており定期的に子ども食堂や演奏会などのイベントも積極的に行われている。

子育て世代の来客も多く畳の小上がりスペースでママ友同士がゆっくりおしゃべりする姿もよく見られる。

幹線道路に面したギャラリーはオープンな空間とし、道路からも内部での活動が見えるようにし交流を促すように計画した。広く跳ね出した軒下空間を利用し様々なイベントを行うことができる。

幅広く多様な活動ニーズを受け入れる空間。古い家具や道具を活用し、季節の料理作りができるキッチン、ライブラリースペース、さりを織体験スペースを設置。
年齢に関係なく「自分なりにできる役割を持つ」というコンセプトに基づき、場所と資源、一緒に過ごす時間を共有する。
SDGsの達成目標に合致した地域社会のハブとして、また防災拠点としても持続可能に機能する。

地域の方々が普段の散歩の延長で立ち寄り散歩することができる小径は、ところどころスロープ状になったりアプローチとなったりカーブしながら回遊動線を形成する。

0歳～2歳までの子供達が通う。保育園の領域はフェンスで囲われておらず、夫々のサービス運営が見守り声かけすることで安全を担保している。

4つの施設が囲むように配置された中庭。シンボルの築山が建物からの視線を受け止め、短期宿泊利用者が過ごしやすく圧迫感を軽減できている。

2階の相談支援事業所からは、ノキシタの全体を見渡すことができる。

西側のメインアプローチから広々とした空間視覚効果を狙い、正面奥の2つの建物は景観色(濃茶色・墨色)とし、羅行させボリューム感を落とした。

スロープは15度の傾斜角度で、何気ない運動効果を狙う。

縮尺1/350

0

10

20

50m



賑わう中庭。



ギャラリーの様子。



ギャラリーから見下ろす子どもたち。



やわらかい光で地域を照らす夜のノキシタ。



カフェの様子。(地域材の造作家具使用。)



ショートステイ(右)とグループホーム(左)へは送迎アクセスを考慮。

























Steel News 2





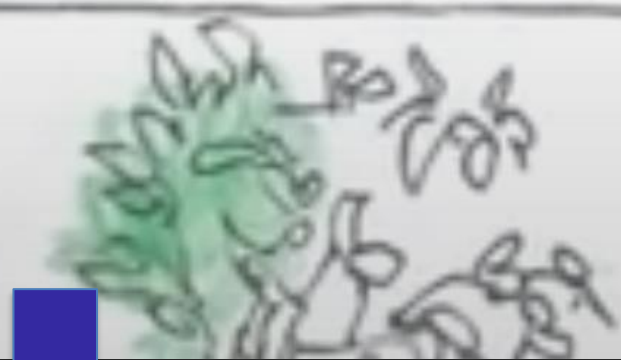


























Open Village
ノキシタ







児童館に出入りしない児童たち











台の森

仙台駅





BEFORE



BEFORE



BEFORE











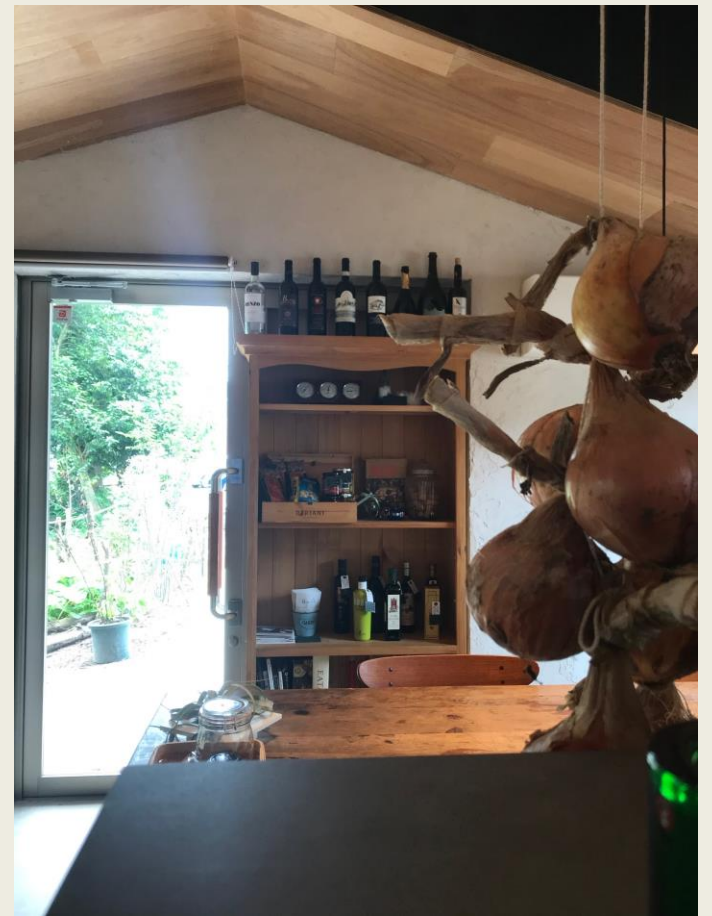




Saxoni/ciln

— 4 + 1 = 5 * 12 2













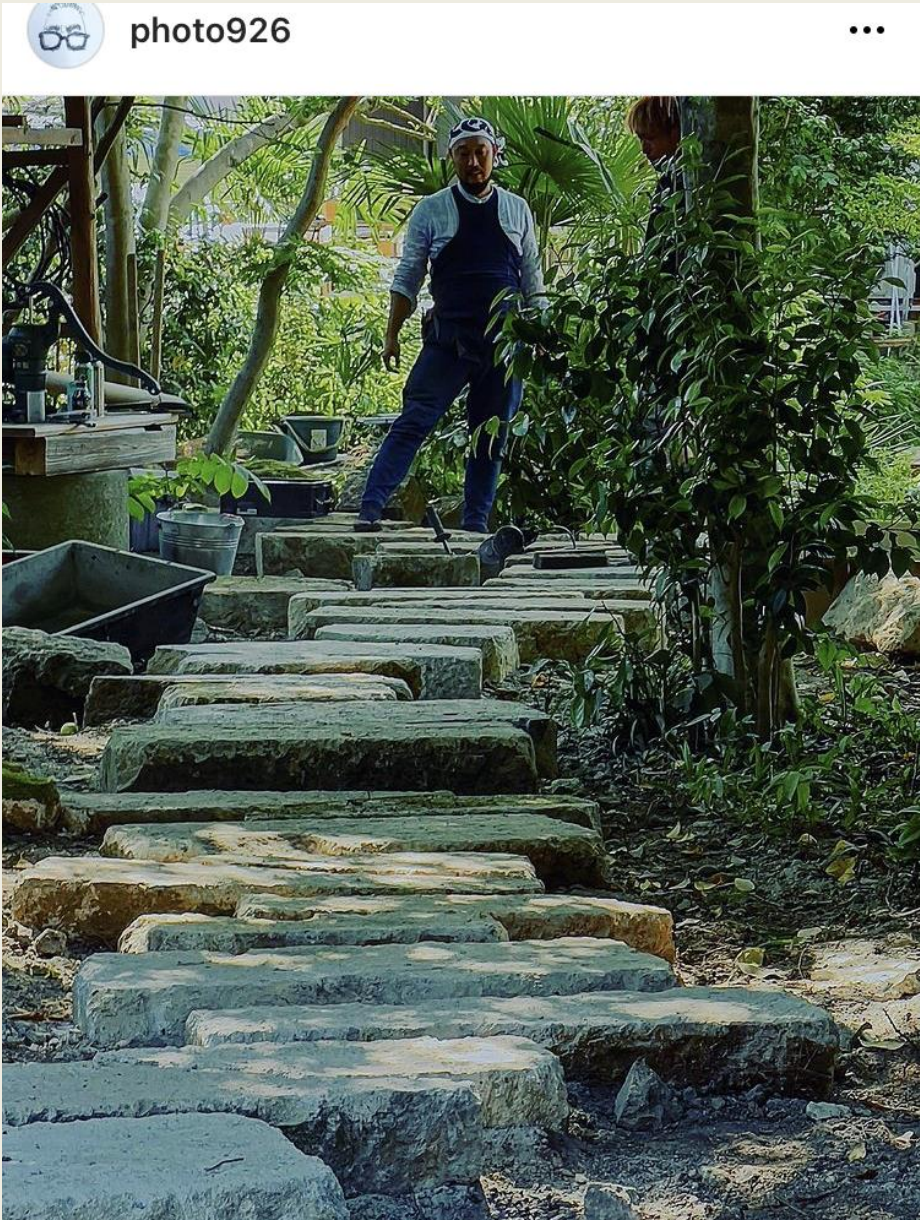
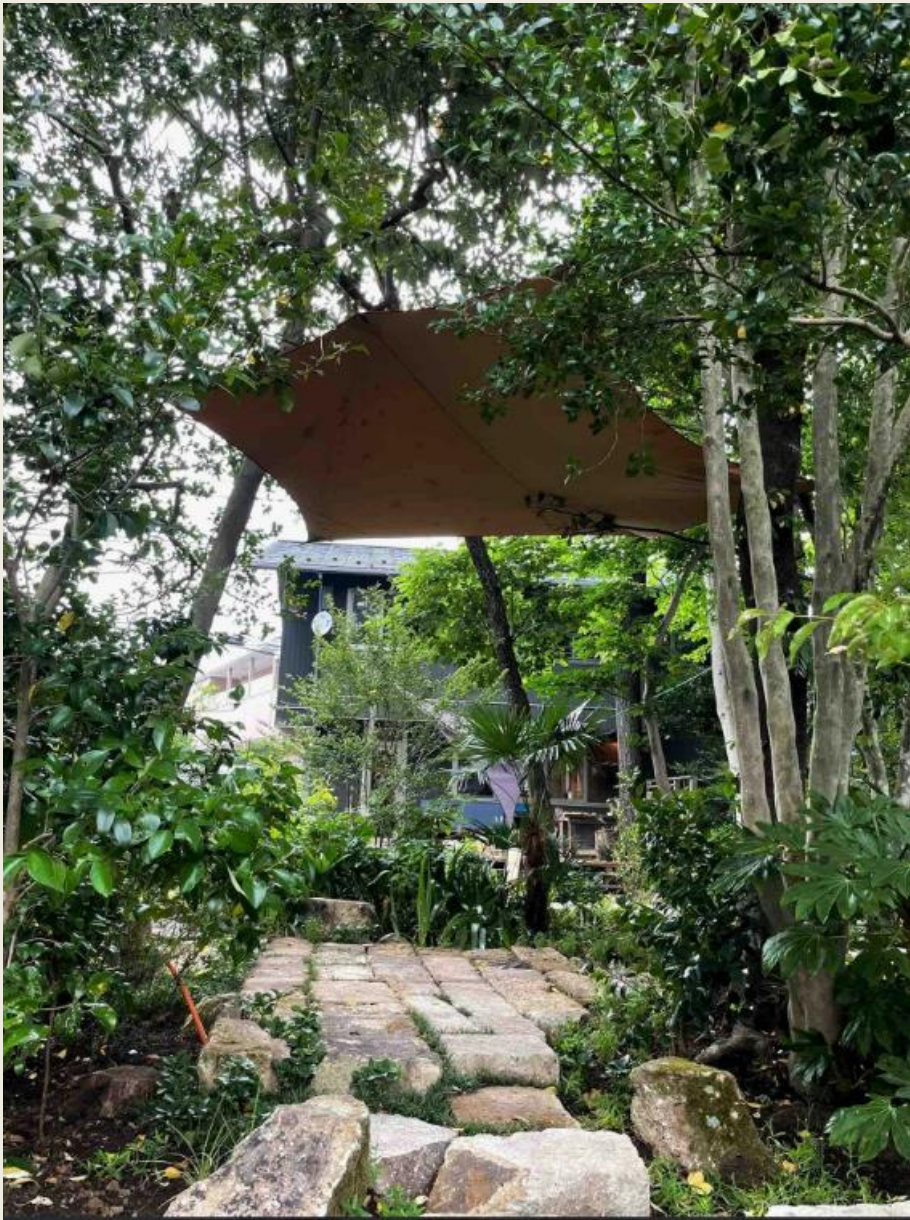
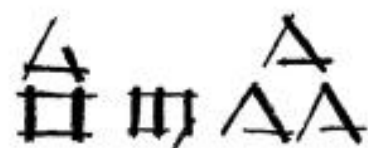


photo926



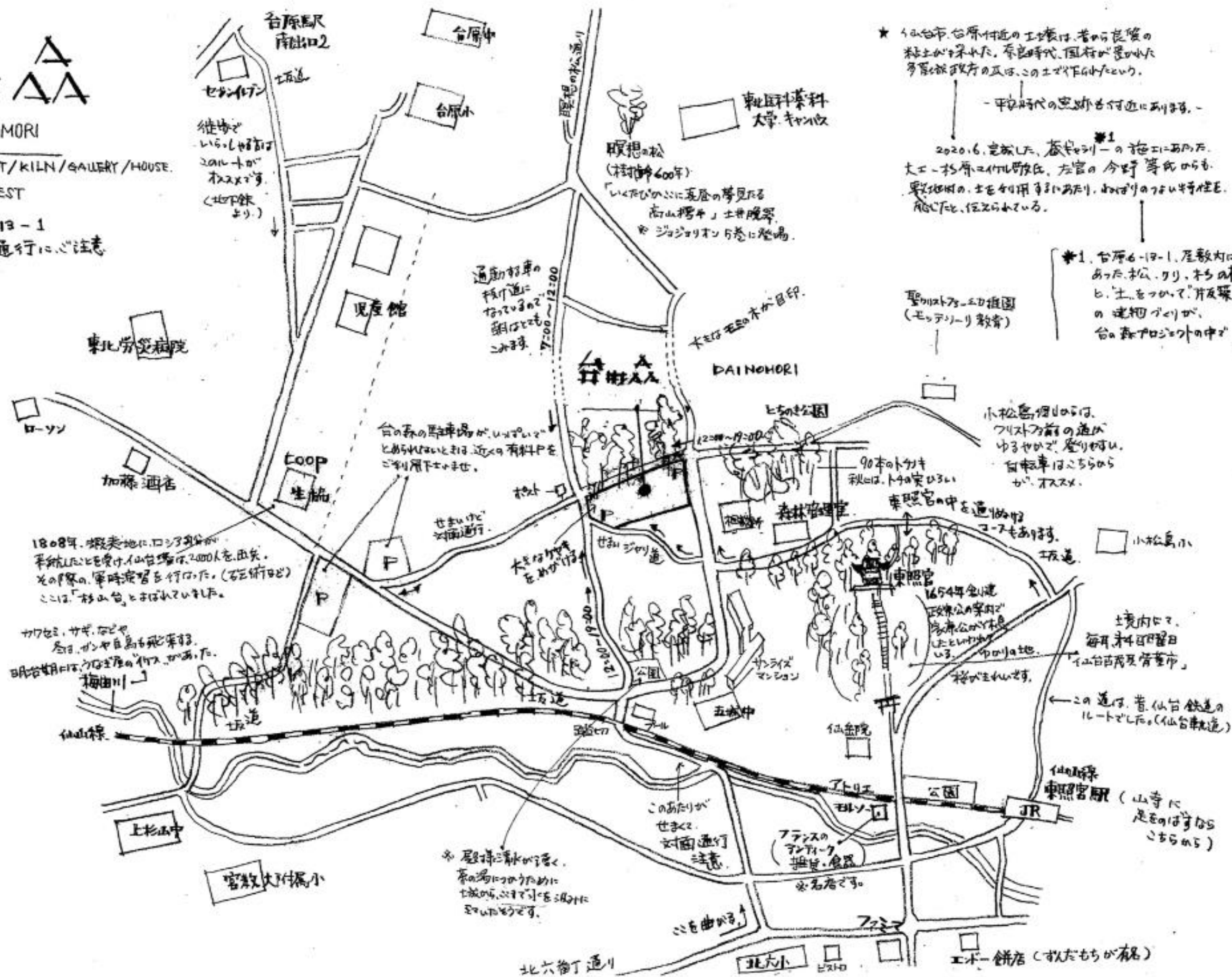


DAI NOMORI

CAFE / RESTAURANT / KILN / GALLERY / HOUSE.

FOREST

台原6-13-1
時間帯 一方通行にご注意











【森】を波及する



陶芸家の息子様はカフェを経営

【森】を波及する



夫婦や家族の関わりが増えた

【森】を波及する



今なお、地域の価値を創造している最中です。

